

社会科学習指導案

平成18年10月27日（金曜日） 第5校時（13：30～14：20）

桐生市立東中学校 1年1組 1の1教室 指導者 小 島 善一郎

授業の視点

統計資料を基に作成した分布図やグラフを、比較し関連付けて話し合い、桐生市の地域的特色をまとめていくことは、地理的な見方や考え方を育むうえで有効であったか。

I 題 材 「桐生市を調べよう」（単元 身近な地域の調査）

1 考 察

(1) 教材観

本題材は、学習指導要領の内容(2)「地域の規模に応じた調査」の中の「ア 身近な地域」に当たる。観察や調査などを行い、生徒が生活している土地に対する理解と関心を深めさせるとともに、市町村規模の地域的特色をとらえる視点や方法、地理的なまとめ方や発表の方法を身に付けさせることをねらいにしている。

この題材で扱う身近な地域は、生徒の生活の舞台である桐生市である。桐生市というと生徒は「日本の機（はた）どころ」というとらえ方をする傾向にある。織物業が栄えていた時代があったからである。しかし、現在では廃業し工場の取り壊しや、リニューアルする例も多く、市の変化も著しい。平成17年に市町村合併も実施され、桐生市の将来を担う生徒にとって、「機どころ」だけでなく、広い視野で桐生市を理解することが求められてきている。そこで、直接に調査活動や観察のできる学区だけでなく統計資料や景観地図などを使い桐生市全体も扱うことにした。桐生市の耕地や森林の様子、人口の推移や人口分布、商店街や工場の分布から産業の変化など、現在の桐生市の地域的な特色をとらえることは、桐生市の理解を深めるうえで基本となる大切な題材であると考えた。身近な地域とはいえ、野外調査に出て初めて気づくところや地形図、統計資料などを活用して気づくことは多く、桐生市を知るよい機会である。また、桐生市全体を扱うことで、地域の特色を幾つかの視点や方法でとらえる条件も備わる。この題材では、桐生市を調査・観察することで特色をとらえていくが、新旧地形図の比較や、地形図を活用した野外調査、桐生市の統計資料を地図化・グラフ化する活動など、さまざまな活動を通して課題解決的な学習を進めていく。学び方の基礎・基本を身に付けさせる段階ではこのような方法がふさわしいと考えた。

【社会的事象への関心・意欲・態度】

東中学校は、桐生市の東に位置し学校の東隣には桐生川、周りには家や商店、のこぎり屋根の建物も数件見られる。校区付近の高台には新興住宅地、幹線道路に沿って商店街、その周囲は、山々が囲む。野外調査では、自分たちの住んでいる地域を地形図で確認もでき、興味・関心をもって調査ができるであろう。野外調査でとらえきれない桐生市の各地域については、景観写真や航空写真なども用いることにより、広く桐生市について興味・関心をもたせることができるであろう。また、統計資料を活用して桐生市の調査を進めるが、数字が並ぶ統計資料は、難しく興味もわいてこないと思われる。そこで、統計資料を地図化・グラフ化する作業を取り入れることにした。この活動により、一層意欲的に追究ができる題材となると考えた。

【社会的な思考・判断】

学校区の野外調査では、住宅地・商店街・工場・田畑の立地条件などに焦点を当て、地形図を活用しながら調査を進める。しかし、桐生市の特色を発見していくためには、都市化の進む一面を観察することはできても、桐生市の全体を概観することは難しい。そこで、統計資料を活用する。人口の減少や人口の分布に偏りがあること、少子高齢化の様子、自然環境では森林が多いこと、産業面では工場の減少の様子などがうか

がえる。また、市町村合併により、人口・産業など様々な面において新たな変化や様々な特色を見いだすこともできる。しかし、統計資料をそのまま読み取ることは、生徒にとってあまり楽しいこととは思えず、抵抗を感じる場所である。しかし、「土地利用」「人口」「産業」等に関する統計資料から、地図化・グラフ化の作業や作成した分布図やグラフの活用は、新しい住宅地の立地の様子、人口の推移や人口分布の偏り、昔からの商店街と新しい商店街や工場の分布などを観察するのに大変よい材料となる。作成した地図やグラフを対比し、関連付けし話し合わせることによって、桐生市の地理的な原因や背景を追究し、環境条件や人々の営みとの関係を考察することができる。このようなことから、本題材は地理的な見方や考え方の基礎・基本を身に付けるのにふさわしい題材であると考えた。

【資料活用の技能・表現】

本題材では、桐生市の特色を見だし発表するまでの過程で、調査活動を行い、地形図の読図、景観写真などの読み取りを行う。さらに、統計資料の情報を基に地図化・グラフ化し、作成した地図やグラフから桐生市の土地の利用の様子や人口の変化や分布、産業との関係などを読み取り、まとめ、発表をする。このような活動を通して、地理的な技能や表現の基礎を身に付けさせることができる題材と考えた。

【社会的事象についての知識・理解】

桐生市の知識や理解を深めることは住民として大切なことである。また、市町村合併により桐生市と新里村・黒保根村が合併したため、これらの地域を理解するよい機会でもある。この題材である身近な地域の調査の学習によって、野外調査や、地形図や統計資料などの情報から、地図化・グラフ化したもので考察し発表しまとめるという一連の学習は、身近な地域をとらえる視点や方法を理解することや地理的なまとめ方を理解するのにふさわしい題材である。

(2) 研究主題とのかかわり

関ブロ群馬大会の研究主題である「確かな学力を育てる社会科教育の展開」ー基礎・基本を確実に身に付け、地理的な見方や考え方を育む授業の創造ーを受け、地理的分野では分野別研究主題を「地理的技能を身に付け、地理的な見方や考え方を育てる指導の工夫」と設定した。

◇本題材である「身近な地域の調査」における地理的技能を身に付ける活動とは、次のようにとらえた。

① 地理情報の活用に関する技能

- ・桐生市の地理情報を収集する技能を身に付けること。
- ・統計資料を使って地理的特色をどう説明、紹介するか、処理や表現の関する技能を身に付けること。

② 地図の活用に関する技能

- ・身近な地域の地名に関心を持ち、位置を確認しようとする事。
- ・地形図に慣れ親しみ、身近な地域を訪ね歩く技能を身に付けること。
- ・地形図や、生徒が作成した分布図やグラフから、地理的事象を読み取ったり、地理的事象を、地図を通して追究しとらえたりする技能を身に付けること。
- ・統計資料を活用し、地図化することが可能か、地図に表すとすればどう工夫すればよいかを判断し、適切に地図化する技能を身に付けること。
- ・作成した地図やグラフから諸事象をとらえ、説明しようとする事。

◇地理的な見方や考え方を育てる指導の工夫としては、次のようにとらえた。

- ・課題をもって解決していく学習形態をとる。
- ・作成した分布図や統計地図、グラフを使い、「なぜこのような分布図になったのか」「なぜこのような傾向のグラフになったのか」という発問や、分布図や統計地図、グラフを比較し関連付けをさせ規則性や傾向をとらえさせる追究場面の設定や、その背景や要因を追究していける話合いの場面の工夫。ワークシートの工夫。

(3) 教材の系統

小学校；生活科・社会科

生活科 1・2 年 ・身近な人々及び地域の様々な場所、公共物 ・身近な人々、社会及び自然に関する活動の楽しさ	・地域の人々や場所とのかかわりや親しみ、身近な自然の観察、季節や地域の行事、活動
社会科 3・4・5 年 ・地域の地理的環境 ・わが国の産業や国土の様子 ・社会的事象の意味	・身近な地域や市町村における観察、調査、地図や具体的資料を活用、地域社会の特色や関連、県の様子や特色、資料を活用、白地図にまとめる、考える力



中学校 1 年社会科地理的分野

「身近な地域の調査」；【本題材】 身近な地域の観察調査、まとめ方 市町村規模の地域的特色をとらえる 視点や方法 発表の基礎・基本。

中学校 1 年社会科歴史的分野

「歴史の流れと地域の歴史」； 地域への関心、課題設定とまとめ、作業的な活動



中学校 1 年社会科地理的分野

「都道府県の調査」；2～3 の都道府県の地域的特色。 都道府県規模の地域的特色をとらえる視点と方法。
--



中学校 2 年社会科地理的分野

「世界の国々の調査」；2～3 の国の地域的特色。 国家規模の地域的特色をとらえる視点と方法。
--

中学校 1・2 年社会科歴史的分野

「古代までの日本」「中世の日本」 「近世の日本」「近現代の日本と世界」
--



中学校 2 年社会科地理的分野

「様々な面からとらえた日本」； 世界から見た日本、国内の地域的特色。国土の特色を様々な面からの大観。 地域間の比較・関連付け、地域的特色を明らかにする視点・方法。
--



中学校 3 年社会科公民的分野

「現代社会と私たちの生活」； 地域社会、国民生活とその変化、多様な学習活動 「地方の政治と自治」； 地方公共団体、住民の権利や義務、地球環境、資源、エネルギー問題、国家間の相互の主権の尊重と協力 「私たちの暮らしと経済」； 生産のしくみ、企業の役割、社会資本、公害、少子高齢化

(4) 生徒の実態（男子19名 女子15名 計34名）

本題材について、アンケートや日常的な学習から見た生徒の実態は次の通りである。

【社会的事象への関心・意欲・態度】

基本的に1年生は活発で学習意欲も高く、桐生市については、伝統的な織物・不景気な商店街の様子・少子高齢化など、日常的な情報からのイメージでとらえている生徒が多い。全体として、桐生市については、「桐生に住んでいるのだからもっと知りたい」と書いている生徒が多く、意欲的な様子が伺える。中には調査に消極的な生徒も見られ、個人差を感じさせる一面も見られる。

【社会的な思考・判断】

「桐生市といったらどんなことを知っていますか。」という質問に「自然が多い」「織物が有名」「桐生祭り」など普段の生活の中で感じていることや、昔から有名といわれていることを固定観念で簡単に書いている生徒が多い。「なぜ多いのか」「なぜ有名か」「どこには多いがどこには少ない」など、しっかり考察し答えている生徒は少ない。

【資料活用の技能・表現】

アンケートから、桐生の調査について意欲は感じるが、「実際に野外に出て調べる」「本やインターネットで」程度で、空欄の生徒も見られた。調べる方法を具体的に示している生徒は少なかった。「地形図についてどんな感想を持ちましたか」という質問には、「地図の見方がわからない」「細かいのでわかりづらい」「地図記号がわからない」など、地形図の使用に抵抗感が感じられた。また、グラフの作成や読み取りについては、多くの生徒が苦手意識をもっている。

【社会的事象についての知識・理解】

「桐生市といったらどんなことを知っていますか。」という質問に「織物が有名」「山が多い」と書いた生徒がほとんどであった。桐生というやはり「織物」という意識が強いようである。「桐生市の人口はどれくらいか」という質問には、「10万～15万人」に14名、「1万～5万人」に10名と人口については、現実より少ないイメージでとらえている生徒が多い。〔桐生市の人口12万8035人（平成17年）〕小学校3・4年で活用する「わたしたちの桐生」（桐生市教育委員会）の内容は、群馬県の中で見た桐生市の位置、鉄道や道路の様子、古くからの産業で桐生織の紹介、地域の調査などを学習してきているが、アンケートからは、桐生市の地域的特色について明確にとらえられていない様子を感じとれた。また、課題解決的な学習については、各教科や総合的な学習で経験していることから、個人差はあるが、各自で学習を進めることはできる。

2 目標

桐生市に関する野外調査や地形図の読み取り、統計資料からのグラフ・統計地図・分布図の作成から、発表したりまとめたりする活動を通して、市町村規模の地域的特色をとらえる視点や方法の基礎を身に付ける。

3 評価規準

	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 技能・表現	エ 知識・理解
内容のまとめりの評価規準	桐生市の景観や変容から関心を高め、身近な地域を意欲的に調査・観察し、地域的特色をとらえようとしている。	桐生市の地理的事象から課題を見だし、環境条件や人々の営みなどと関連付けて追究するとともに、市町村規模の地域的特色をとらえる視点や方法を考察している。	桐生市に関する観察や調査、地図や統計資料などの読み取りから、地理的情報を選択し、活用し、桐生市の地域的特色をとらえ、発表したり、まとめたりしている。	桐生市の地域的特色をとらえるとともに、市町村規模の地域的特色をとらえる視点や方法を理解し、それらの知識を身に付けている。
題材の評価規準	・学校区や桐生市の景観や変容など地理的事象について、関心が高まっている。 ・観察や調査に意欲的に取り組み、身近な	・桐生市の諸事象を地理的事象として見いだしている。 ・桐生市の地域的特色を地形図、作成した分布図やグラフなどからとらえ、	・地形図を活用し学校区における野外調査や観察を行っている。 ・桐生市をとらえるために、地形図を読み取り、統計資料の地	・桐生市の環境条件や人々の営みと作成した分布図やグラフなどとの関係に着目してとらえた地域的特色を理解し、その

題材の評価基準	地域の特色をとらえようとしている。 ・統計資料から地図化・グラフ化する活動に意欲的に取り組んでいる。 ・作成したグラフや分布図から桐生市をとらえ地域的な特色を考えようとしている。	地域の自然環境との結びつきや人々の営みとのかかわりに着目し多面的・多角的に考察している。 ・市町村規模の地域的特色をとらえる視点や方法を考察している。	図化やグラフ化を通して、情報を適切に活用している。 ・統計資料から、地図化やグラフ化したり、桐生市の様子をとらえ、地域的な特色として発表したり、まとめたりしている。	知識を身に付けている。 ・市町村規模の地域的特色を地形図や統計資料をもとに地図化・グラフ化する視点や方法を理解し、その知識を身に付けている。
学習活動における具体的評価基準	①学校区および桐生市の地理的事象について関心・意欲の高まりを自己評価欄に記入している。 ②野外調査に意欲的に取り組んだことについて自己評価欄に記入している。 ③統計資料を基に地図化やグラフ化する活動に意欲的に取り組んでいる。 ④地域的特色を追究するために、地図やグラフの作成や考察に意欲的に取り組んでいる。	①新旧の地形図から地理的事象を見だし、地理的事象を成り立たせている背景や要因を予想し、検証の方法をワークシートに記入している。 ②予想を追究するため、野外調査や桐生市の統計資料を地図化やグラフ化していくなど、方法や視点を考察し、ワークシートに記入している。 ③作成した地図やグラフから、予想の検証に役立つ情報を選択し、桐生市の地域的特色をつかみワークシートにまとめている。 ④生徒の発表や作成した地図やグラフを比較、関係付けて、桐生市の地域的な特色を成り立たせている原因や背景をまとめワークシートに記入している。	①桐生市の新旧地形図を比較し集落や田畑を着色や、大まかな山地と住宅地、耕地の区分している。 ②統計資料を基に情報を読み取り、自分の課題に沿った地図やグラフを作成している。 ③作成した地図やグラフから、予想や検証に役立つ情報を選択し、発表用の資料を作成している。	①地形図のきまりを理解している。 ②統計資料をグラフ化・地図化する仕方を理解している。 ③学習の結果、市町村規模の地域的特色をとらえる視点や方法などを理解しワークシートに記入している。

4 指導方針

- 題材となる桐生市に関心をもたせるため、導入時に桐生市の特色ある地域の景観写真や航空写真などを提示し学習に対する意欲をもたせると同時に課題をつくる意識を高めさせたい。
- 地形図のきまりを学習する中で、集落や田畑を着色させ、大まかな山地と住宅地、耕地の区別をさせるとや、新旧の地形図の比較から、桐生市の変化や疑問を見つけださせたりすることで地形図を読み取る能力を高めていきたい。
- 統計資料の地図化グラフ化の学習では、視覚的に理解できるようにパワーポイント等を使い、統計資料が

どのように変化し、見やすくなるのかを感じ取らせたい。また、一例を挙げ、実際に簡単なグラフ作りを体験させ、地図化グラフ化の面白さを味わわせたい。

- 作成した分布図やグラフから、桐生市の様子をつかませ、自分の考えを構築させる。そして、発表や話し合いを通し、生徒の学び合いやそれぞれの考えを練り上げ、知識の共有化を図る。考えがより多面的・多角的に吟味できるよう、それぞれの場面で分布図やグラフの活用と的確なアドバイスをしていきたい。

5 指導と評価の計画（全10時間予定）

時	主な学習活動	支援および留意点	評価項目と方法
1	○桐生市に関心をもつ ・桐生市の様々な地区の景観写真を見る。 桐生市はどんな都市だろう？ ・地形図と航空写真を比較し身近な地域を再確認する。	○桐生市の景観写真や航空写真を見せ、景観写真から桐生市の地形や住宅地、商店街に関心をもたせる。	・学校区および桐生市の地理的事象について関心・意欲の高まりを自己評価欄に記入している。 【自己評価欄・観察】 〔関心・意欲〕ア①
2	○地形図の見方を学習する。 ①集落や田畑を着色 ②大まかな山地と住宅地、耕地の区別をする。	○地形図を用いて、地図記号、縮尺、等高線などのきまりを理解させ、学校周辺にある地理的事象を確認させる。	・地形図のきまりや利用の仕方を理解し、①・②をしている。 【ワークシート・観察】 〔資料・技能〕ウ① 〔知識・理解〕エ②
3	○課題設定① ・地形図から桐生市の地形の概要をとらえる。 ・新旧の地図の比較から、桐生市の変化や人口の分布などをとらえる。また、なぜなのか予想する。 ・予想したことを、野外調査で検証できるかどうかを考え、歩くコースを決める。	○新旧の地形図を使って桐生市の住宅地や人口の変化などに注目させる。調べる視点をしぼる。 ・新旧の住宅地の変化や分布 ・新旧の商店街の変化や分布 ・工場の分布 ・田畑などの変化 ○地図上で予想したことについて、検証する方法を考え、歩くコースを決めさせる。	・新旧の地形図から地理的事象を見だし、地理的事象を成り立たせている背景や要因を予想し、検証の方法をワークシートに記入している。 【ワークシート・観察】 〔思考・判断〕イ①
4	○野外調査 ①地形や立地条件などを調査する。 ②予想を検証する。 ③わかったことをまとめる。	○目的に沿って調査をさせ、調査後、予想の修正や立地条件等をワークシートにまとめさせたりする。	・野外調査に意欲的に取り組んだことについて自己評価欄に記入している。 【自己評価欄・観察】 〔関心・意欲〕ア②
5	○課題設定②・追究 グラフや分布図を作成して桐生市の特色を調べよう。 ・統計資料を基に、グラフや分布図を作る方法を知り、どんな地図やグラフを作成するかを考え、作成を始める。	○桐生市のようなすをつかむ方法の一つとして、統計資料からグラフや分布図にする一例を示す。 ○特色を追究する視点を人口の分布や推移・新旧の住宅地・新旧の商店街・工場の分布など、幾つかに焦点化して追究させる。	・統計資料をグラフ化・地図化する仕方を理解している。 【ワークシート・観察】 〔知識・理解〕エ② ・予想を追究するため、統計資料を地図化やグラフ化していく方法や視点を考察し、ワークシートに記入している。 【ワークシート・観察】 〔思考・判断〕イ②

6	○自分の課題に沿った調査・作業に取り組み、地図やグラフを作成する。	○課題に沿った地図やグラフを描かせる。	・統計資料をもとに地図化やグラフ化する活動に意欲的に取り組んでいる。 【ワークシート・観察】 〔関心・意欲〕ア① ・統計資料をもとに情報を読み取り、自分の課題に沿った地図やグラフを作成している。 【グラフ・地図・観察】 〔資料・技能〕ウ②
7	○課題の追究・考察 ・統計資料を基にグラフや分布地図を作成し、規則性や傾向を見だし、桐生市の地域的特色をまとめる。	○作成しながら、分かったことや、疑問に思うことなどは記録させ、桐生市について自分の考えを構築させる。	・地域的特色を追究するために、地図やグラフの作成や考察に意欲的に取り組んでいる。 〔関心・意欲〕ア④ ・作成した地図やグラフから、予想の検証に役立つ情報を選択し、地図やグラフを作成している。 【グラフや地図・観察】 〔資料・技能〕ウ③
8	○同じ視点でグラフや地図を作成した生徒同士で、桐生の地域的な特色について話し合う。	○同じ視点でグラフや地図を作成した生徒同士で、分かることを自由に話し合わせ、考えられたことをまとめさせる。	・作成した地図やグラフから、予想の検証に役立つ情報を選択し、桐生市の地域的特色をつかみワークシートにまとめている。 【グラフや地図・ワークシート】 〔思考・判断〕イ③
9 【本時】	○発表・追究 ・作成した分布図やグラフについて代表者（3人）の発表を聞く。 ・提示されたグラフや分布図を比較させたり、関連付けたりして話し合い、桐生市について全体の様子をとらえ、特色を考える。（4人組） ・桐生市の特色を全体で話し合い、ワークシートにまとめる。	○代表者には、①どのように作成したか、②わかったことは何かを発表させる。 ○提示されたグラフや分布図を対比させたり、関連付けたりして考えさせる。 ○読み取ったことから、その原因や背景を考えさせ、環境条件や人々の営みなどに着目させ、話し合わせる。	・生徒の発表や作成した地図やグラフを比較し、関係付けて、桐生市の地域的な特色を成り立たせている原因や背景を話し合い、ワークシートに記入している。 【観察・ワークシート】 〔思考・判断〕イ④
10	○まとめ ・桐生市について、自分の理想をまとめる。 ・市町村規模の地域的特色をとらえる視点や方法などを振り返る。	○地形図の読み取りや野外調査、統計資料の活用、地図化・グラフ化などの調べる方法を用いて、幾つかの視点で地域の特色をとらえることができたことを振り返らせる。	・市町村規模の地域的特色をとらえる視点や方法などを理解しワークシートに記入している。 【ミニテスト・ワークシート・自己評価】 〔知識・理解〕エ③

Ⅱ 本時の学習指導

1 目標：作成した分布図やグラフを比較し関連付ける話し合いをし、桐生市の地域的特色についてとらえる。

2 準備：新編新しい社会 地理（東京書籍）、作成したグラフや地図、用紙、桐生市の地形図、ワークシート、プロジェクター。

3 展開

ねらい（時間）	生徒の活動	支援及び留意点・評価項目（方法）
1 写真とグラフ・地図から興味関心をもたせる。 （5分）	○本時の学習のねらいを確認する。 作成した分布図やグラフから、桐生市の地域的特色について話し合おう。 ・桐生市の様々な景観写真や航空写真や生徒の作成した地図やグラフを見る。	○桐生市の景観写真や航空写真を見ながら前時までを振り返る。 ○生徒の作成した地図やグラフを提示し、本時のねらいを把握させる。
2 作成した地図やグラフの発表を聞かせる。 （10分）	○生徒による発表を聞く。（3人） ・発表者の説明 ①分布図やグラフの作成までの説明 ②分布図やグラフの見方 ③作成して分かったこと ・聞く生徒は、疑問点や質問をメモしながら聞く。	○発表や話し合いの基になる地図やグラフを数点提示し、これから始まる発表者の説明について①どのように作成したか②調べてわかったことなどの点に注意させしっかり聞かせる。 〔生徒A、提示する地図とグラフ〕 ・人口数の推移グラフ、町別の人口数の分布図 〔生徒B、提示する地図とグラフ〕 ・商店数の推移グラフ、新旧商店街の分布図 〔生徒C、提示する地図とグラフ〕 ・工場の分布図、土地利用のグラフ
3 桐生市の特徴について話し合わせる。 （15分）	○桐生市の特徴について話し合う。 （4人組） ・代表3人の発表や、提示された複数の地図を関連付けて桐生市の地域的特色を説明できるようにグループで話し合い、まとめる。 ①桐生市の現状や地域的特色について ②なぜそうなるのか、その原因や背景を考えさせる ・班（4人組）ごとにアナライザーを使って、考えられた特色の数を示す。	○これから始める話し合いについて説明する。 ・作成したグラフや地図を参考に関連付けて考えさせる。 ①人口の変化や分布の偏りと自然環境との関係 ②人口の変化や偏りと新旧の商店街の分布の関係 ③工場の分布と自然環境 ・考えが出てこない班には、教師が支援したり、みんなで考える場面をつくったりする。
4 クラス全体で話し合わせる。（10分）	・班で話し合った桐生市の地域的特色を出し合い、クラス全体で意見を練り上げる。	【思考・判断】 生徒の発表や、作成した地図やグラフを比較・関連付けて、桐生市の地域的特色を成り立たせている原因や背景を話し合い、ワークシートに記入している。 〔観察・ワークシート〕
5 まとめさせる。 （10分）	○話し合いから、桐生の地域的特色をまとめ、ワークシートにまとめる。	○話し合いからわかった桐生の地域的特色についてワークシートにまとめさせる。